



ワールドカップとゴミ拾い

副校長 岩間 洋

今、日本中が盛り上がっているサッカーワールドカップ。初戦では強豪のコロンビアに2-1で勝利しました。戦前の予想では、圧倒的にコロンビアが有利と報じられており、苦しい戦いになると思っていました。しかし、日本代表の選手たちは積極的なゲーム運びで果敢に戦い、前回のブラジル大会では1-4という大敗を喫した相手にリベンジを果たす結果となりました。

第2戦のセネガル戦も緊迫感あふれる試合内容で、体格やスピードで上回る格上の相手に互角以上の戦いをし、2-2の引き分けで勝ち点1を取ることができました。高い技術と組織的な戦術、経験豊富なベテランと若い力の融合、そして何より最後まであきらめず、粘り強く戦うSAMURAI BLUEの姿に世界のメディアからも賛辞が送られています。

今、ワールドカップで「日本が世界一の手本」といわれていることがあります。それは、日本人サポーターの試合後のゴミ拾いです。前回のブラジル大会でも世界中で大きな話題となった日本人サポーターによる試合後のゴミ拾いの光景は、今回の大会でも大きく報じられました。

サポーターによる観客席のゴミ拾いは、日本がW杯に初出場した1998年フランス大会から行われている取組だということです。試合中にスタンドで膨らませて応援する青い袋を、試合後はゴミ袋として活用しているようです。

今大会では、日本人サポーターが以前から国際大会などで続けてきた「ゴミ拾い文化」が各国サポーターに広がっていることが話題となっていました。大会初戦で日本代表と対戦したコロンビアのサポーターや、同じグループのセネガルのサポーターも試合後にスタジアムのゴミ拾いをしたと報じられていました。このような光景が世界中に紹介され、さらに世界各国に広まり、世界の規範となっていることを誇らしく思います。

日本人の道徳心（倫理観）・礼儀正しさは世界に誇るものがあります。

私たち日本人は、「落ちているごみを見たら進んで拾う」「人に出会ったらあいさつをする」これらの礼儀やマナーを子供の頃から学んできました。笹野台小学校の子供たちもそのような礼儀正しい日本人の伝統を受け継いでほしいと思います。改めて日本人の素晴らしい心を笹野台小学校の子供たちにしっかりと育てていけるようにしていきたいと思います

7月9日（月）～13日（金）に個人面談を行います。その折には、お子様のこれまでの学習・生活面を振り返り、頑張ったことはご家庭でも認め、励ましていただけたらと思います。子供のちょっとしたよい点に気付き、それをさりげなく子供に伝えることはとても大切なことです。教師や親からほめられるという体験を多くもって育った子供は自分に自信をもち、何事にも積極的に取り組もうとする力をつけていくことでしょう。